

## つながり

活動先：愛光園 知多地域障害者生活支援センター らいふ

### 1. 自分の成長の気づき

サービ斯拉ーニングを通して、私は「つながり」の大切さに気づくことができました。

まず、クラスの仲間、グループの仲間、先生達との「つながり」だ。サービ斯拉ーニングのクラスでは仲間と出会い、1年間同じクラスで意見交流しながらつながることができた。特にらいふで一緒に活動した仲間とは、活動前の不安や、活動中の疑問を話し合い、活動後には様々な面からふり返りをしながら、つながり合い、1人では不安なことや、分からなかったことも、仲間とのつながりの中でたくさん学ぶことができたと感じている。また、サービ斯拉ーニングの先生達の思いや考えも聞き、視野を広げて見たり、考えたりすることができるようになった。

そして、らいふの職員や利用者さんとの「つながり」だ。どんな障害があっても、その人らしく生きられるように、と支援を行なっている職員の人とのつながりで、利用者さん一人ひとりと目線を合わせて関わっていくことを学んだ。自閉症や知的障害などのある利用者さんとのつながりでは、言葉ではなく視覚的なコミュニケーションの方法や、同じ空間を楽しむことを学んだ。

また、サービ斯拉ーニングで知多半島のNPOについて学習し、NPO同士の「つながり」がとても深いと感じた。1つのNPOだけではできない愛フェスなどの取り組みについても、知り、つながることで大きなことができることを学んだ。

これまで関わったことがなかった人達と出会い、つながることによって、新しい発見があり、今までとは違う考え方ができるようになった。らいふの活動目標であった、障害の特性に応じた支援を学ぶ、ということについても、らいふの職員や利用者さんとのつながりの中で、たくさんの支援を学び、実際に行動することができた。1人だけではなく、1つの施設だけではなく、1つのNPOだけではなく、もっともっと色々な人がつながり合うことで、より良い地域が作られるという発見ができた。これがサービ斯拉ーニングを通して、私が成長したことである。

### 2. 活動を通して見えてきた地域活動や社会課題

私が活動したらいふは、障害者自立支援法で位置づけられている日中一時支援を行なっている。障害者自立支援法の改正で万が一、日中一時支援できなくなった場合、利用者さんは、レスパイトサービスを利用することになる。レスパイトサービスは10割負担のため、利用者さんの家族への負担が大きくなってしまう。そのとき、地域の人のつながりが必要になってくる。らいふでの活動中、利用者さんと一緒に公園に行ったとき、遊びに来ていた他の人に偏見の目で見られたことを感じたことや、利用者さんに対しての悪口が聞こえてきたことがあった。自閉症や知的障害は、見た目だけでは分からなかったため、理解されにくいことを感じた。しかし、コンビニに行ったとき、1人の店員さんは、利用者

さんのこだわりについて理解していて、優しく接してくれた。

障害のある人に対して、偏見の目で見るとはなく、コンビニの店員さんのように自然に接することはとても大切だと思う。しかし、普段、障害のある人とのつながりのない人は、やはり自然に接する事は難しいだろう。だからこそ、障害の有無に関わらず、同じ地域に住む人同士が普段からつながることのできるきっかけが必要だと考えた。例えば、夏祭りやクリスマスなどの行事の解き、近所の人にも声をかけ、障害のある人と一緒に楽しめる企画があれば、偏見の目で見ると減ると考える。日中一時支援だけではなく、レスパイトサービスになったとき、経済的に厳しい家庭では、利用回数を減らし、家に閉じ込めなければならないこともあるだろうそんなとき、偏見の目で見ると減ると考える。地域の人たちの見守りで、障害のある人も好きなときに外出することが可能だと考える。

サービスラーニングによって、自閉症や知的障害の人への支援方法だけではなく、人と人との「つながり」で誰もが住みやすい地域をつくれるということが学べた。サービスラーニングで学ぶ前は、誰かがやってくれる、という考えることが多かったが、自分が色々な人とつながらなければ変わらないこともあると知ることができた。これからは私も、一市民として、気づいたことをどんどん声に出していこうと思う。